

# 「確かな学力」の向上のためにⅡ

～「学び合い」と「学びの習慣づくり」の推進～

平成22年3月 福島県教育庁県北教育事務所



## 生きる力

「生きる力」をはぐくむという学習指導要領の理念の実現に向け、確かな学力を身に付けさせるために、県北教育事務所では、特に、

- 1 学び合いを大切にした授業を展開すること
- 2 家庭と連携しながら学びの習慣を育てていくことを推進しています。

- 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力 など

## 確かな学力と学び合い

### 基礎的・基本的な知識・技能

### 思考力・判断力・表現力等

### 学習意欲

確かな学力については、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが重要です。(学校教育法第三十条②参照)

また、学習指導要領の改善の方向性として、言語活動や体験活動の充実を図ることにより、他者とのかかわりの中で子どもたちが共に生きる自信をもつことの重要性が示されました。さらに、言語活動の充実については、各教科等を貫く重要な改善の視点であることが示され、授業の構成や進め方自体を改善する必要があることが述べられました。

これらのことから、確かな学力の育成のためには「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させること」などの、子ども同士の学び合いが大切であると考えられます。

## 確かな学力と学びの習慣づくり



### 授 業

### 家 庭 学 習

### 朝の学習など

確かな学力を育成するためには、授業の充実はもちろんですが、子どもに学習の仕方を身に付けさせる指導を行ったり、学習相談等を充実させたりすることも大切です。また、家庭との連携を図りながら、子どもの学習習慣が確立するよう配慮しなければなりません。

授業と家庭学習、朝の学習などを関連付けた学習サイクルをつくりあげる工夫が求められています。

# 「確かな学力」の向上を支える学びの習慣づくり

ここでは、望ましい学習習慣を身に付けさせる学校と家庭学習のかかわりについて確認します。

## 授業と望ましい学習習慣の確立

望ましい学習習慣の確立は、何より、授業での学び方が基盤となります。したがって、右の「学習の手引き」に示す内容については、授業の学習場面に応じて指導し、主体的に身に付けさせることが大切です。また、手引きの活用にあたっては、次のことに配慮する必要があります。

- \* 学習の準備や返事の仕方など、小・中学校共通に定めた授業の約束事については、どの学年でも指導する。
- \* 発表の仕方やノートづくりなど、基本的な学習の仕方については、学年に応じ段階的に指導する。
- \* 繰り返し学習や教科に応じた学習の仕方については、発達の段階に応じてきめ細やかに指導する。

<「学習の手引き」内容の例>

- ・学習のねらい
- ・各教科の学習のポイント
- ・学習の準備
- ・話の聞き方
- ・発表の仕方
- ・話し合いの仕方
- ・ノートづくり
- ・家庭学習の進め方 など

日々の授業の充実

学 校

小・中連携の推進

## 充実した家庭学習に向けて

学校では、家庭での生活習慣等の実態を把握し、保護者会や学校だよりなどをおして課題を共有するとともに、望ましい学習習慣の確立について家庭を啓発していく必要があります。

### 学校の方針を明確にする

家庭学習の指導を進めるにあたっては、次のことについて学校としての方針を明確にもち、学年を追って効果的な家庭学習の習慣を身に付けさせていくことが大切です。

- 家庭学習の取り組ませ方
  - ・「予習と復習」や「宿題と自主学習」のバランス  
(反復学習の徹底と自分の学習状況に合った学習の工夫)
- 取り組んでみたくなる魅力ある家庭学習の課題づくり
- 家で学習したことを授業で取り上げ、生かすための指導計画

### 家庭と連携して支援する

学校と家庭が連携し、自発的、計画的に取り組もうとする子どもたちを日常的にサポートし、望ましい学習習慣を身に付けさせることが大切です。その実践例を紹介します。

- ◇ 「家庭学習カード」を使って、子どもが毎日の家庭学習の内容や時間を計画して学習し、それに対して保護者と担任がコメントを書き、励ましています。
- ◇ 「家庭学習の手引き」に家庭学習の日課例を示して家庭に協力を促し、子どもと学習相談を丁寧に行いながら、帰宅後の家庭学習に見通しをもたせています。

家庭で学習する習慣

家族のコミュニケーション

家 庭

朝食をとる習慣

適切な睡眠をとる習慣

節度のあるゲーム等の利用

## 望ましい生活習慣の確立

# 「学び合い」のために～子どもの言葉を大切に～

「学び合い」を行うためには、まず、子ども同士が互いの考えを知ること（共有化）が必要です。そのために教師は、結論を急がず、子どもの言葉や表現を丁寧に見取り、よさやポイントを見逃さずに取り上げ、全体に広げることが大切です。

## 事例1 子どものつぶやきを取り上げて広げた例 ～5年算数「図形の角のひみつを調べよう」から

- 前時に三角形の内角の和をいろいろな方法で求め、本時は四角形の内角の和を求める授業
- いろいろな方法で求めた結果を発表する場面

教師 では、4つの角の大きさの和は $360^\circ$ でいいですか？

児童 いいです。

教師 どのようにして求めましたか？

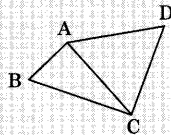
A児 4つの角の大きさを分度器で測ってたしたら $360^\circ$ でした。

B児 4つの角をちぎって合わせたら、ぴったり $360^\circ$ になりました。

C児 四角形は三角形2つに分けられるので、三角形2つ分で $360^\circ$ になると考えました。

D児 すごい！

教師 他にありますか？



〔 C児の発表に対して、D児から「すごい！」という声が上がりましたが、教師はそのまま先に進んでしまい、D児の声は最後まで取り上げられませんでした。〕

- この場面は、本時のねらいとする考え方が出されたところで、帰納的に考えてきた三角形の内角の和を使って、初めて演繹的に考える見方が付け加わった本場に“すごい”場面でした。
- このとき、または、方法が出尽くした後の段階で、C児の考えのよさにD児が気付いたこと（「よさの気付き」）を取り上げて、全体に広げたいものです。



- D児に説明させることで、C児の考えのよさが他の児童にも具体的に分かります。
- 「Cさんの考えのすごさに気付いたDさんもすごいね。」と返してあげることで、C児もD児も満足することができますし、他に認められる機会にもなります。
- 「Cさんはどうしてそう思い付いたの？」と、またC児にもどし、見方・考え方の共有化を図ることもできます。

D児 すごい！

教師 Dさん、どういうところがすごいと思ったの？

D児 だって、私は昨日やったのと同じ方法しか思い浮かばなかったのに、昨日分かった三角形の3つの角の大きさの和が $180^\circ$ っていうことを使って、三角形2つ分で考えるなんて、すごいと思います。

## 事例2 子どもの発言の中の言葉を取り上げて広げた例 ～3年理科「明かりをつけよう」から

- 乾電池と豆電球をどのようにつなげば明かりがつくのかを探る授業
- 自由試行でやってみた結果を発表する場面

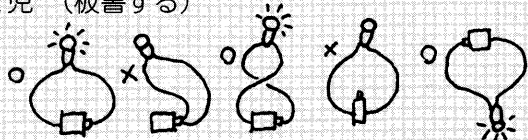
教師 Eさん、どうでしたか？

E児 どんなつなぎ方をしても、プラスとマイナスにつなげば明かりがつけました。

教師 そう、電池のプラスとマイナスになげばついたのね。みんなはどうでしたか？同じだったという人は手を挙げて。

教師 そう、いろいろなつなぎ方をしてみたのね。どんなふうしてみたの？黒板にかいてみて。

E児 (板書する)



教師 他にこんなこともやってみたという人はいますか？

教師 Fさん、Gさん、Hさん、黒板にかいてください。

〔 本時のねらいである「電池の両極につなぐ」というキーワードが出されたことで、教師はこの言葉だけを取り上げてしまいました。〕

- 教師は意図している言葉だけを拾ってまとめてしまいがちですが、言葉の背景や思いを推し量りながら丁寧に聴き、必要に応じて広げる必要があります。
- ここでは、E児の「どんなつなぎ方をしても」という言葉を具体的にしたいところでした。



- 試行錯誤した結果を共有することにより、「そういうのもあったのか」など、一人一人が自分の考えと比較しながら、考えを深めることができます。
- 図をかかせておくなど、はじめから共有化しやすいような方法を工夫しておく、さらによい展開になるとおもわれます。

# 「授業改善に生かしたいポイント」の解説

ここでは、右ページの「平成22年度指導の重点全体構想」の中にある「授業改善に生かしたいポイント」について、具体的に説明しています。

①～⑤は一般的な授業の流れを意識して設定したもので、①は単元全体を見通して授業を構想する段階、②は授業の導入、③と④は展開、⑤は終末と、それぞれの段階でのポイントを示しています。

子どもの学びの姿に即して、次の内容を弾力的に取り入れていただきたいと思います。

## 1 子どもの実態を踏まえた指導の重点化

子どもの実態を踏まえて教材研究を深め、重点化を図った単元（題材）の指導構想を練り、1時間1時間のねらいを明確にして授業をつくるのが大切です。

- (1) 実態を把握する
  - 既習内容の定着 ○ 既存の概念、経験 ○ 資質や能力 ○ 興味・関心 ○ 学習特性 など
- (2) 重点化を図る
  - 知識・技能の習得と活用 ○ 育てたい資質や能力 ○ 教えることと考えさせること
  - 各時間のねらい ○ 活動の内容、時間、方法 ○ 教材、教具

## 2 子どもにとって学びがいのある学習課題の設定と把握のさせ方の工夫

本時のねらいを達成するために、学びがいがあり必然性をもたせることができる学習課題を設定すること、把握のさせ方を工夫して解決の意欲や見通しをもたせるのが大切です。

- (1) 学習課題を設定する
  - ねらいを効果的に達成できる課題 ○ 子どもが学ぶ価値を感じ取ることができる課題
  - 興味・関心を高める課題 ○ 子どもの思考の流れに沿う課題 ○ 多様な考え方が引き出せる課題
- (2) 把握のさせ方を工夫する
  - 分かりやすい提示 ○ 解決の意欲を起こさせる提示 ○ 見通しをもたせる提示
  - 一人一人の見方・感じ方を生かす配慮 ○ 交流を促す配慮 ○ 把握の確認

## 3 子どもに自分の考えをもたせる場の保障

子どもの主体的な課題解決のために、考える時間を適切に位置付け、教材としっかりと向き合せて、既習の知識・技能を生かしながら課題に取り組みさせるのが大切です。

- (1) 考える時間を確保する
  - 単元（題材）全体の中の考える時間 ○ 1単位時間の中の考える時間
- (2) 教材と向き合わせる
  - 教材（教科書、資料等）の活用 ○ 目的（発見する、根拠をもつ等）の明確化
  - 考え方（比較、類推等）の示唆 ○ 活動（試行する、ノートに書く等）の指示 ○ 見取りと個別指導

## 4 集団（小集団）での学び合いの重視

子どもが、各々の考えを出し合い、自分の考えと比較したり、みんなで検討したりすることによって考えを深めることができるように、教師が意図的に指導するのが大切です。

- (1) 思考の共有化を図る
  - 発表や話し合いなど、直接共有化を図る方法 ○ 掲示や展示など、間接的に共有化を図る方法
  - 伝えあう場の保障 ○ 教師による意図的なつなぎ
- (2) 集団（小集団）での吟味を行う
  - 多様な集団づくり ○ 聴くこと、話すことの指導 ○ 教材とのかかわりの確認
  - 違いやよさに気付かせる工夫 ○ 見取りと適切な方向付け

## 5 子どもの学びを生かしたまとめの工夫

子どもが、この授業で何がわかり何ができるようになったのかを、発達の段階に応じて自分で振り返りまとめられるように工夫し、次の見通しをもてるようにするのが大切です。

- (1) 学習のまとめを工夫する
  - 学習の成果を自覚させるまとめ ○ 自分や友達のよさをとらえる自己評価、相互評価
- (2) 次の見通しをもたせる
  - 次時の学習課題へのつなぎ ○ 家庭学習への接続

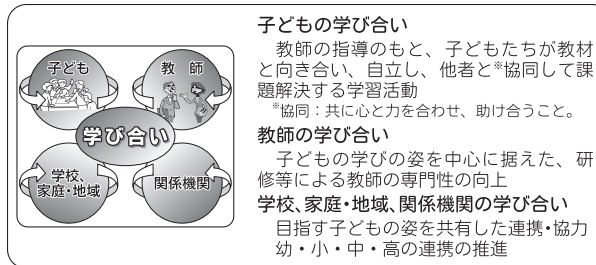
# 「学び合う」県北の教育

## 生きる力

### なぜ「学び合い」か

子どもが学び合いをすることによって

- 習得した知識・技能を活用する力がつき、思考力・判断力・表現力を高めることができるようになります。また、知識・技能の定着が確かなものとなります。
- 友だちとのかわりを深め共に学ぶ楽しさを実感し、思考を共有することで互いのよさに気づき、豊かな人間関係を育むことができるようになります。



### 「確かな学力」の向上

- ◎ 「確かな学力」の向上を目指すグランドデザインの改善
  - ◇ PDCAを踏まえた柔軟かつ具体的な指標の設定
  - ◇ 長期、中期、短期の評価の工夫と学校関係者評価の活用
- ◎ 「確かな学力」の向上を支える基盤（環境）づくり
  - ◇ 学級経営を土台としたよりよい人間関係の構築
  - ◇ 聴き方・話し方を重視した学び合う集団の育成
  - ◇ 学びの習慣を育てる「授業」「家庭学習」「朝の学習等」の学習サイクルの確立
  - 幼児の主体的な活動を促す計画的な環境構成
- ◎ 「確かな学力」の向上を目指す授業（保育）の充実
  - ◇ 授業改善に生かしたいポイント

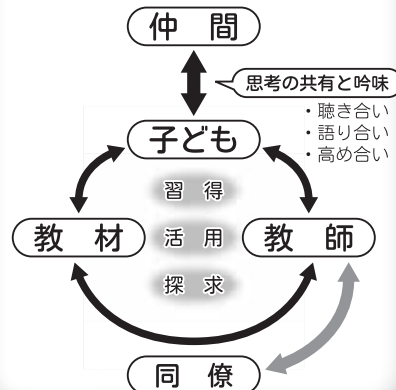
- 1 子どもの実態を踏まえた指導の重点化
- 2 子どもにとって学びがいのある学習課題の設定と把握のさせ方の工夫
- 3 子どもに自分の考えをもたせる場の保障
- 4 集団（小集団）での学び合いの重視
- 5 子どもの学びを生かしたまとめの工夫

- ◇ 子どもの姿に即した教材研究・分析の充実
- ◇ 「習得」「活用」「探究」を関連付けた学習活動の充実
- ◇ 体験的な学習や問題解決的な学習の重視
- ◇ 思考力・判断力・表現力等を育成するための言語活動の充実
- ◇ 少人数教育のよさを生かした指導の推進
- 「言葉」と「体験」を大切にしたい指導と人間関係づくりの重視

- ◎ 「確かな学力」の向上を支える研修等の充実
  - ◇ 子どもの学びの姿に即した校内研修の活性化と授業の充実
  - ◇ 基礎的な指導力（発問、板書、ノート指導、意図的指名等）の向上
  - 幼稚園教諭の専門性の向上  
(幼児期の発達の特徴を踏まえた指導の充実)



### 子どもの学び合い



#### 思考の共有と吟味のために

教師は

- 子どもの学びの姿を把握する。
- 教材をもとに考えさせる。
- 子ども一人一人の思考をつなぐことによって、自他の思考の違いやよさに気付かせる。

### 豊かな人間性・社会性の育成

#### 道徳教育の充実

- ◎ 道徳の実践力の育成
  - ◇ 重点目標を設定した全体計画と各教科等との関連を考慮した指導計画の改善
  - ◇ 道徳教育推進教師を中心とした全教師による指導体制の確立
  - ◇ 要としての「道徳の時間」の確実な実施
  - ◇ 「道徳の時間」におけるのびのびと表現できる場の設定
  - ◇ 「開かれた授業参観」の実施

#### 特別活動の充実

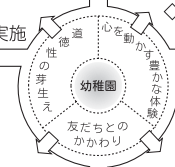
- ◎ 望ましい集団づくりの充実
  - ◇ 自発的・自治的な活動のための話し合い活動
  - ◇ 交流体験や文化的な体験、職場体験等を重視した活動
  - ◇ 集団や社会の一員として、望ましい人間関係を形成するための指導
  - ◇ キャリア発達にかかわる諸能力を育てる指導

#### 生徒指導の充実

- ◎ 積極的な生徒指導の推進
  - ◇ 望ましい学級集団の形成
  - ◇ 教育相談の一層の充実
- ◎ 不登校解消やいじめ根絶の推進
  - ◇ 児童生徒の実態的確な把握による早期発見、早期対応、早期解決
- ◎ 問題行動の未然防止と的確な対応
  - ◇ 家庭、地域社会及び近隣校や関係機関との実効ある連携

#### 特別支援教育の充実

- ◎ 障がいの特性を踏まえた指導の充実
  - ◇ 障がいの特性に応じた指導及び支援内容の明確化
  - ◇ 「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の有効活用
- ◎ 連携を生かした支援体制づくり
  - ◇ 校内支援体制の整備
  - ◇ 家庭との信頼関係を大切にしたい一貫性のある支援
  - ◇ 特別支援学校、関係機関等との連携



### 体力の向上と健康・安全

- ◎ 体育・健康に関する指導計画の工夫・改善
  - ◇ 幼稚園、小・中学校、高等学校の系統性及び学校課題に応じた指導内容の重点化
- ◎ 健康に関する指導の工夫
  - ◇ 学校給食を効果的に活用した食に関する指導の展開
  - ◇ 「性に関する教育」の手引の活用を図った発達段階に応じた指導
- ◎ 安全に関する指導の工夫
  - ◇ 「ライフスキル」、「危険予測・危険回避能力」等実践力の育成
- ◎ 体力の向上に関する指導内容の工夫
  - ◇ 教科及び特別活動、教育課程外の活動をより一層関連させた指導の展開
  - 十分に体を動かす気持ちのよさを体験できる場の設定

### 社会教育からの支援

○地域教育力の活用（学校支援・家庭教育支援ボランティア等）

○学習機会の提供（図書館、公民館・学習センター、体育館等）

○放課後の安全・安心な子どもの居場所づくり（放課後子どもプラン）